

会報

No. 89

平成25(2013)年9月15日

<http://www.library.pref.kyoto.jp/renkyo/renkyo.html>

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9

京都府立図書館内

TEL (075) 762-4655

<目次>

1面

・武雄市図書館から学ぶこと

2面

・京都府図書館等連絡協議会
総会開催
・ケルン市立図書館長講演会

3面

・京都府図書館等連絡協議会
役員体制及び事業計画

4面

・府内公共図書館紹介

武雄市図書館から学ぶこと

京都市岩倉図書館

仲田 義明

武雄市図書館が今年四月にリニューアルオープンした。その前後から、テレビや雑誌などマスコミで、一斉に報道されはじめる。

公共図書館がこれほどまでに注目されるようなことが、かつてどれほどあっただろうか？

マスコミの関心は、書店や喫茶コーナーとの併設であり、館内で飲食しながら本を閲覧できるところ、そして図書館利用が薦屋のポイントカードに付加されることである。

私が武雄市図書館を訪れたのは六月、平日の朝十一時。到着時の駐車場にはすでに百台を超える車が並んでいる。大盛況である。

後に広報されたデータによると、今年度四、六月の来館者計が、一昨年の年間トータルに匹敵するとい

う。館内に入ってまず目につくのは天井の高さ、次いで、入り口から間近の所で、販売目的に平積みされた百田尚樹のベストセラー本である。

そしてその右手には、スターバックスのカウンターがあり、その奥には、早々と来館された多くの利用者ならぬお客様方が、コーヒーを飲みながら本を読んでおられる。

図書館関係者の中には、改装後の武雄市図書館の在り方について、否

定的に捉えている人もいる。しかし公共図書館の利用が増えることは、大いに結構なことだ。

ではいったいその要因とは何か？ コーヒーを飲みながら図書館の本を閲覧するということは、図書館運営に携わる者にとって甚だ衝撃的なことだが、利用者にとってはどうだろうか？

館内の書店スペースはそれほど広いとは言えない。つまり購入図書が、量的にそれほど充実している訳ではないということになる。ポイントカードについて判断するのは難しいが、そのことだけで、これほどまでに利用率をあげているとは考えにくい。

やはりマスコミへの露出効果が最大の要因であると思われる。

そして図書館内に書店、喫茶、CD・DVDレンタル店が併設されていることだろう。図書館に足が向かう動機付けが、二つ三つ重複して存在することは重要だ。

武雄市図書館の杉原館長は、「未だにこの変化が本当に良かったのかどうかはわからない。また現在の賑わいが、今後ずっと継続するのと考えている訳でもない。実は、市外利用者のあまりの多さに圧倒されたせい、地元市民の登録率が芳しくない。今の状態が落ち着けば、今度こそ地元住民への働きかけを行ってきたい。」とおっしゃった。

いたずらに武雄市の取り組みを図書館界の異分子と捉えるのではなく、大局に立って、今、武雄市で何

が起こっているのか、その行く末を見守る必要があるのではないかと。

公共図書館が社会装置として機能していくには、その利用を増やすことが大原則であり、今、彼らはそのことに成功しているのだから。

武雄市図書館を訪問した翌日、隣の伊万里市民図書館に行き、三時間に渡って古瀬館長のお話を伺った。その取り組みを聞いて、なぜ館の名称が「市立」ではなくて「市民」図書館なのかがよく理解できた。

今回訪問した二つの市立図書館の運営方針は、隣接した市であるにもかかわらず、まったく別のものであり、むしろ対局にあるように思える。

しかし、その両館がいずれも、古くからある図書館の固定観念に捉われることなく、変化し続けているところに注目したい。

詳しくは、十月四日実施予定の臨時研修会で紹介します。



平成二十五年度 京都府図書館等 連絡協議会総会開催

平成二十五年度京図連協定期総会が、平成二十五年四月二十四日（水）午後一時三十分から、京都府立図書館において開催されました。

開会行事で、この春の人事異動により南丹市立中央図書館長となられた麻田会長から、昨年は京都府内でも、豪雨により図書館そのものには被害がなかったものの、休館を余儀なくされた例があった。昨年十二月に改正された「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に、危機管理の項目が新たに追加されたところであり、いつ起こるかわからない災害に備え、災害時における図書館の対応や果たすべき役割について、普段から準備をしておくことが大切である。災害などの非常時に、図書館同士で助け合うためには、常日頃から、近隣はもちろん、遠くの図書館とも気軽に情報交換をして、お互いの状況をよく知りあい、つながっていないければ難しいと思うと述べられ、定期総会後の情報交換の場をきっかけに、館長はもちろん、職員同士の交流が活発になるよう期待しておりますと挨拶されました。

続いて、来賓の山崎国立国会図書館関西館次長、阿部京都府教育庁指導部社会教育課長から祝辞、宮野京都府立図書館長から歓迎の挨拶をいただきました。

その後、平成二十五年度の理事が紹介され、仁科八幡市立図書館長を議長に選出し、加盟館四十九館中、出席二十一館、委任状二十五館により総会が成立していることを確認し、議事が開始されました。

◆議事内容

事務局から平成二十四年度の会務報告及び決算報告を行い、監事の松野京都市北図書館長から監査報告がなされ、会務報告・決算報告ともに承認されました。

続いて、監事に松野京都市北図書館長、橋本長岡京市立図書館長、顧問に中西京都市中央図書館長、伊藤京都市立総合資料館長、宮野京都府立図書館長が承認されました。

また、事務局から平成二十五年度事業計画案及び予算案の説明を行い、ともに承認されました。

◆功労者（団体）表彰

総会後、府内の図書館等で読み聞かせ等図書館活動や読書活動の振興に寄与された団体・個人を表彰し、永年の活動を称えました。

◆功労者（団体）一覧

醍醐朗読ボランティアの会 ひびき

代表 鹿毛 照美様

其枝なかよし文庫

代表 安田 智子様

本とお話の会 パンフルート

代表 入江 雅子様

小野田 照代様

本の修理ボランティア

代表 三木 慎一様

甲山 扶美子様（京都市中央図書館）

田畑 倫子様（京都市中央図書館）

林 和香様（京都市醍醐中央図書館）

秋川 由香里様（精華町立図書館）

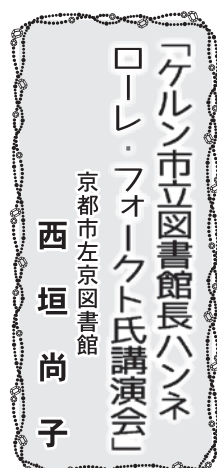
◆情報交換会

今回の情報交換会は、府内全域の加盟館の方々が一堂に会する機会でもあることから、ざつとばらんに情報交換を行い、交流を深めることを目的に、従来の講演会に替えて今年度初めて実施しました。

初めに、参加者全員に一分以内に、自己紹介、自館の特徴や力を入れている点、あるいは日常業務で課題となっていることなどを順にお話いただきました。

次に、昨年度末に、情報交換会で話し合いたいテーマについてアンケート調査をした結果をもとに、I 危機管理（対人トラブル、災害対策等）に関する課題、II 管理運営（職員体制、休日開館、予算等）に関する課題、III 図書館資料（選書、資料破損等）に関する課題、IV 利用者サービス（高齢者、YA、障害者等）に関する課題、V 館外との連携（学校、ボランティア、他館）に関する課題の5つのグループに分かれて、それらのテーマを皮切りに、各館での日常業務での課題や、他館での基準や対応の仕方など聞いてみたい事例等について、自由に情報交換をしました。

最後に、各グループで話し合った内容について簡単に報告があり、参加者の中には、初めて図書館に勤務されることになった館長もおられたので、どの図書館等でも類似する課題があり、それぞれの図書館等の状況に応じて様々な工夫をされていることを知り、また、たくさんの館長と面識もできたので良かったとの感想がだされました。



『「常に一歩先を！ー市民の集いとデジタルコミュニケーションの中心としての図書館」ー京都・ケルン姉妹都市提携五十周年記念』と題して、「ケルン市立図書館長ハンネローレ・フォークト氏の講演会」が、平成二十五年五月十三日（月）午後二時三十分から午後五時まで、ゲーテ・インスティトゥート・ヴィ

ラ鴨川ホールで開催されました。講演会の概要は次のとおりです。

ケルン市は人口百万人で、ドイツで四番目に大きな都市です。ケルン市立図書館は、中央図書館と十一の分館、一台の移動図書館、視覚障害者図書館からなります。移民が多い土地で、利用者の七割が四十歳未満です。

ケルン市立図書館は、企業から現物の寄付を受け、様々な取り組みをしています。寄付は予算の五%程度です。スポンサーを獲得する為に、図書館にポジティブなイメージを持たせ、常に人々を驚かせるような存在であるような心がけています。また、例えば図書館の利用冊数をただそのまま数値として出すのではなく、「六秒間に一冊貸し出されている。」など、わかりやすく表現することで、図書館がいかによく利用されているかをアピールしています。

寄付によって行われている特長的な取り組みをいくつか紹介します。

「ミニ図書館(ミニビブ)」

公園の中にあり、誰でも利用登録なしで、発行後二年以内の新しい資料を借りることができます。「いつでもいいから返してください。」とお願いするだけで、返却率は七割程度です。

図書館への敷居を低くする取り組みとして成功しています。

「ミステリー自動貸出機」

ミステリー小説ばかり八百冊を、自動的に貸出・返却することができ、ます(要利用登録)。人通りの多い、地下鉄の駅につながるショッピングセンターに設置しました。三百六十五日・二十四時間利用でき、蔵書検索・貸出延長・予約も可能です。多くの人の目に触れ、壁面を広告に使える利点があります。

他にも、自分のレコードをデジタル化できるブースや、Macで作曲をして楽譜をプリントアウトできるブースの設置、電子書籍やGPSナビゲーターの貸出、3Dプリンターをいち早く導入しデモンストレーションを行うなど、常に図書館が最先端技術に触れられる場であるようにしています。またiPadやWiiを使つたイベントを開くことで、その技術を経験してもらっています。なお、機械の使い方は、ボランティアのインストラクターが指導しています。

さらに、マーケティングを重要だと考え、お客様重視の姿勢を貫いています。図書館はサービス業であり、コミュニケーションが重要な役割を果たします。例えば苦情処理ですが、四年前から専門の担当者を置き、目安箱を設置し、回答を三日以内に行っています。回答がすぐにできない場合もその旨を返事します。さら

に、Facebook・Twitter・ブログを使った広報活動をするなどで、より人々が図書館に親しみを感じるように心を配っています。

図書館にとって利用者は大きな潜在力であり、図書館を発展させ、支援してくれる可能性があります。どんな情報が必要か、何に興味があるか、ということについては最高のエキスパートであるお客様と、良い双方向のネットワークを作ることができれば、お客様の満足度が上がりま

す。サービスは良くなり、お客様は図書館のサービスについて口コミを広めてくれるようになります。

「図書館はこれからも人に必要とされるか?」とよく尋ねられます。インターネット時代においては、居心地が良く、人が出会い、情報を得ることができる魅力的な場であるべきです。

改革のためには自ら打って出ましょう。間違ふこともあるかもしれませんが、失敗の中に学びがあります。常に一歩先を!

【講演内容の詳細については、ホームページに掲載しています。】



平成二十五年京図連協役員体制

会長

麻田 和美(南丹市立中央図書館)

副会長

塩見 裕(与謝野町立図書館)

理事

大槻 政美(研修研究委員会委員長
(京田辺市立中央図書館)、西村 隆
相互協力委員会委員長(京都府立図書館)、仲田 義明(広報委員会委員長
(京都市岩倉図書館)、佛円 清太郎
(京都市醍醐中央図書館)、玉城 玲子
(向日市立図書館)、岸 均(久御山町立図書館)、原田 茂弘(木津川市立中央図書館)、塩見 英世(福知山市立図書館中央館)、山本文雄(宮津市立図書館)

平成二十五年専門委員会委員一覧

○研修研究委員会

菅沼 夏子(長岡京市立図書館)、出口 宏子(八幡市立八幡市民図書館)、奥山 一紀(宇治田原町立図書館)、山岡 好美(木津川市立中央図書館)、河西 聖子(精華町立図書館)、鵜飼 弘子(亀岡市立図書館中央館)、四方 希友(福知山市立図書館中央館)、竹之内 英子(舞鶴市立西図書館)、岡本 知子(宮津市立図書館)、田中 せつ子(京都市伏見中央図書館)、林下 ちあき(京都市ライ

トハウス情報ステーション)、若林正博(京都府立総合資料館)、山下秀樹(京都府立図書館)

○相互協力委員会

岡本 三容子(向日市立図書館)、岡井 一代(城陽市立図書館)、内海重幸(久御山町立図書館)、鈴木 浩史(井手町図書館)、前原 英子(南丹市立中央図書館)、後藤 裕美(綾部市図書館)、瀬戸 真由美(与謝野町立図書館)、亀田 真奈美(京丹后市立峰山図書館)、吉村 麻(京都市中央図書館)、小篠 景子(京都府立総合資料館)、堀 奈津子(京都府立図書館)

○広報委員会

村重 あゆみ(宇治市中央図書館)、釘本 容子(京田辺市立中央図書館北部分室)、河田 美奈子(舞鶴市立東図書館)、井上 孝子(京都市左京図書館)、池田 澄美(京都府立総合資料館)、濱口 祐巳子(京都府立図書館)

京都府教育委員会との共催事業

◎第二回子ども読書本のしおりコンテスト表彰式

平成二十五年十一月二日(土)

ルビノ京都堀川

◎第二回子ども読書本のしおりコンテスト巡回展

京都府立図書館を皮切りに府内図

書館等を巡回

平成二十五年度研修計画

◎臨時研修会

平成二十五年十月四日(金)

午後二時から四時まで

場所 京都府立図書館

講師 仲田 義明(広報委員会委員長)

内容 「武雄市図書館から何を学ぶか」

◎北部会場

平成二十五年十二月六日(金)

場所 みやづ歴史の館

講師 高橋 真太郎氏

(鳥取県立図書館)

内容 「公共図書館からできる学

校図書館支援(仮)」

◎中部会場

平成二十五年十一月二十九日(金)

午後二時から四時まで

場所 京都府立図書館

講師 眞野 節雄氏

(日本図書館協会資料保存委員会委員長)

内容 「水濡れ(水損)資料への

対処法(仮)」

◎南部会場

平成二十六年二月頃

場所 精華町立図書館

講師 渡邊 斉志氏

(国立国会図書館関西館)

内容 「これからの公共図書館の

存在意義を考える 第二回―

住民自治と図書館(仮)」

「京都に関することは

総合資料館へ」

京都府立総合資料館 大瀧 徹也

総合資料館は今年、開館五十周年を迎えます。昭和三十八年十一月に開館し、現在は図書館機能と文書館機能を併せもつ「京都に関する専門資料館」として運営されています。

また、平成二十七年度的新館開館を目指して、今年には新総合資料館(仮称)の新築工事も始まります。

ひとつの節目にある総合資料館ですが、一体何がある施設なの?という疑問をよく耳にします。ここでは、総合資料館がどのような所であるのか、簡単に紹介したいと思います。

総合資料館は、京都に関する資料を総合的に収集し、保存し、展示して調査研究等一般の利用に供することを目的とする施設です。資料を半永久的に保存して、後世に残すことを第一としていますので、個人貸出を行っていないのが特徴です。そのため、図書館間相互貸借も所蔵資料の一部に限っています。

貸出をしないのならば他に何ができるの?

総合資料館では、貸出の代わりにレファレンスに力を入れています。

寄せられた相談の一部をご紹介しますと、「京都の住所で『上ル下ル』が使われているのはなぜか」、「昭和八年頃

の市電の路線図を見たい」、「丹波の日吉座について知りたい」、「大正時代に存在した舞鶴銀行について知りたい」、「昭和二年に起った丹後地震について調べている」、「御牧藩(みまきはん)について知りたい」、「精華町にある蓮台寺についての資料はあるか」など、京都府内全域に関する質問があります。

個人貸出がありませんので、レファレンスに必要な参考資料は、常に館内にあります。つまり、利用したい時はいつでも資料を参照することができます。このような環境で相談に応じることのできる施設は、あまりないのではないのでしょうか。

総合資料館に寄せられたレファレンス事例の一部は、国立国会図書館のレファレンス協同データベースに登録して、一般公開しています。また、『図書館雑誌』九月号の「れふあれんす三題噺」に総合資料館のレファレンス事例を掲載予定ですので、こちらも併せてご覧ください。

総合資料館では、京都に関する資料を活かし、様々な相談に対応しています。ここではご紹介できませんでしたが、古文書や京都府が作成した公文書も収集・保存しています。

「京都に関することは総合資料館へ」を合言葉に、京都関係のレファレンスでお困りの際は是非、総合資料館へお問い合わせください。